

(アベノミスクへ期待)

新年あけましておめでとうございます。本年もご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

12月に行われた総選挙は、自民党の圧勝で安倍政権が誕生しました。安倍政権の誕生前から金融緩和政策を期待してか、株高、円安の方向にシフトしておりましたが、誕生後もその勢いは止まらぬような状況であります。今後に関しては、具体的な政策次第だとは思いますが、期待したいと思います。

どんな政策を進めるにあたって、一長一短はあります。今回の金融緩和で言えば、景気が過熱してくれば当然、金利上昇の懸念が広がります。現況、変動金利でローンを組んでいる方にとっては、支払いが増えることとなります。また、円安に関しても輸入品が高くなるという事が言えます。特に、現況日本の原発は止まっておりまして、エネルギーの為に、原油や天然ガスを海外から輸入しなければなりません。ただでさえ、電気料金が上がっているのに更なる負担を強いられる可能性もあります。

反対にと言いますか、そのための政策であるのですが、景気が良くなる可能性もあります。現にマーケットの動きは今のところそうなっています。物の値段が上がれば、企業の収益も上がり、最終的には給料にも跳ね返ってきます。また、株や不動産等の資産価値も上昇すれば、人々はお金を使い始めるものと思われれます。そして人々がお金を使えば、誰かの所得となり最終的には税金が増えます。財政赤字の問題は、今や世界中の深刻な問題となっておりますが、返済の源泉は税金であります。税金は当然ながら所得から生じます。また批判が絶えない公共投資でも誰かの所得にはなるわけで、最終的には税金になります。

公共投資に対する批判は、昔からありました。私も昔はそう思っておりましたが、道路にしても新幹線にしても未来への投資であります。現況の交通網があるから、物流が今の値段で提供出来ているとも言えますし、少なくとも色々な可能性は広がります。もちろん、あきらかに無駄な道路等に関しては、批判は免れないと思いますが、インフラを造るお金も最終的には誰かの所得になっているわけでありまして。また、道路が出来ればそこに面する不動産の価値も上がりますし、施設を造れば雇用が生まれます。原発に関しても、その地域の雇用をつくったのは事実でありますし、また補助金等で潤ってきた部分も否定は出来ません。

私もそうですが、日本人には何となくお金を使う事をあまり良しとしない観念があるように感じます。世界に類を見ない貯蓄金額もそれを表しているのかもしれませんが、もちろん、将来の不安、特に年金の道筋が明確になっていない部分も非常に大きいとは思いますが、皆がお金を使わないという合成の誤謬に陥ってしまっているとも言えます。この状況を抜け出すのは、少なくともバブル崩壊以降、民間の力では出来なかったもので、政府の手による大規模介入がいよいよ必要なのかなと思います。

不動産にとってもインフレは、歓迎すべきものとなります。インフレとはお金の価値が下がるという事になります。その分、物の価値が上がるという事です。実際そのような期待も高まってきていると感じております。安倍政権の経済政策に対する批判が少し出てきている感もありますが、時期尚早だと思います。批判が高まりすぎて、結局何も出来なかったという事にはなってほしくはありません。

塩田 了丈